令和５年度
新時代に対応した高校授業改革推進事業
（指導・評価部門）外国語科

宮崎県立小林高等学校
英語科

報告内容

1　小林高等学校について
2　事業のゴールイメージ
3　研究の方向性
4　本年度の取り組み
5　アンケート結果
6　次年度に向けて

１　小林高等学校について

- クラス編成　普通科５クラス
  （探究科学コース・体育コース）

- 教育課程　１年：英コミュⅠ（３）、論表Ⅰ（２）
  ２年：英コミュⅡ（４）、論表Ⅱ（２）
  ３年：コミュ英Ⅲ（４）、英表Ⅱ（２）
- 課外　平日（夕方週４、４５分）・土曜課外（月１）

２　本事業のゴールイメージ

（１）　指導と評価の一体化に向けた授業（主体的・対話的で深い学びを目指した授業）を全学校で実施する

（２）授業において生徒が１人１台端末を積極的に活用することができる。

（３）新学習指導要領実施に伴う評価について全学校が理解し、観点別評価の３観点をバランスよく評価することができ、評価を生徒の学力向上及び授業力向上に生かすことができる。

3　研究の方向性

（１）　指導と評価の一体化に向けた授業（主体的・対話的で深い学びを目指した授業）を全学校で実施する

（ア）指導と評価の一体化に向けた事業のあり方について
→Can-Doリストに基づく授業作り
→年間計画／単元計画（評価計画）に基づく授業

（イ）　主体的・対話的で深い学びの実現
→授業における「知識・技能」と「思・判・表」のバランス
→何を持って「思・判・表」とするかの共通理解

（２） 授業において生徒が１人１台端末を積極的に活用することができる。

生徒／教師のICTの活用について
→場面ごとに活用方法を整理する
（例）一斉学習（教材の提示）、個別学習（思考を深める、家庭学習）
協働学習（話し合い、意見整理、制作）

（３）新学習指導要領実施に伴う評価について全学校が理解し、観点別評価の３観点をバランスよく評価することができ、評価を生徒の学力向上及び授業力向上に生かすことができる。

観点別評価について
→主体的に学習に取り組む態度の評価場面・方法
→生徒の学習意欲向上、教師の授業改善につながる評価のあり方

４　本年度の取り組み

（１）指導と評価の一体化に向けた授業づくり

（２）公開授業

① 生徒の能力育成につながるICTを活用した授業

② 生徒の能力育成につなげる教科横断的または探究的視点を取り入れた授業

（１）指導と評価の一体化に向けた授業の流れづくり

① 単元目標提示（Can-Doリストベース）
② 生徒による目標の設定
③ 評価基準の共有
④ 授業（評価場面の設定）
⑤ 単元のまとめ
⑥ 生徒による自己評価
⑦ テスト
⑧ 生徒による振り返り

Class (4) No. ( ) Name ( )

English Communication I Lesson

① 単元目標の提示

<KOBAYASHI CAN-DO>
森のキノコの役割について、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができる。

(Part I) What is Japan rich in? Why is it?

1. Let's describe the picture.

2. Listen to today's story. (Listening)

Q: What is part 1 about?

① The forestland rate all over the world.
② The number of forests in the world.
③ The forestland rate and biodiversity in Japan. biodiversity 生物多様性
④ Animals in the forest in Japan.

3. True of False questions (Listening)

(1) Forests account for about 31 percent of Japan's land. (66%) (F)
(2) There are many species in Japan, and many of them are unique to Japan. (T)
(3) Various mushrooms, or fungi, are important in the forest ecosystem. (T)

4. Check Your Understanding (Reading)

(1) What is Japan's forestland rate?
They account for about 66 percent of Japan's land.
(It is about 66 percent.)

(2) Are many species unique to Japan?
Yes, they are.

(3) What plays a large role in the forest ecosystem?
Many varieties of mushroom, or fungi, do.

5. Review the Contents

<Cause>
- the (humid) climate
- a variety of natural environment
- geographical (isolation)

<Result>
- About 66 percent of Japan's land is (forestland).
→Japan has been among the top (three) developed countries with a high forestland rate.
→Japan is rich in (biodiversity).

6. Grammar Point

○現在完了形:「have (has) + 過去分詞」
現在までに(継続)したこと、(経験)したこと、(結果)していることを表す。
Japan (has) (been) among the top three developed countries with a high foretsland rate for many years.
「日本は何年もの間、森林地の割合が高い先進国上位3カ国のうちの1つです」

(1) We (know) each other for 10 years.
→ We have known each other for 10 years.

(2) I (be) to Finland and Sweden twice.
→ I have been to Finland and Sweden twice.

(3) John (not finish) his homework yet.
→ John hasn't finished his homework yet.

6. Write your opinion about

④ 評価場面

We learned that Japan is a country of forest.
Japan has been among the top three developed countries with a high forestland rate for many years.
I think that Japan should keep this situation.
We can ~~many~~ think to protect forestland.
For example, we should grow some plants.
All the plants have a close relationship with each othe.
If we change our life, we can keep high forestland rate in Japan.

A

組　　番　　氏名

Lesson 4 The power of Mushrooms

② 生徒目標設定

学習前【主体的に学ぶための行動目標】　　月 19日

【選択式】 ※選択式から選ぶ、または、自由記述、選択＋自由記述でも可
① 単語や熟語を覚えて使えるようにする
② 本文の内容を何度も音読して表現を使えるようにする
③ 分からない内容を他の人に聞いたり、教えたりする
④ 単元においてさらに内容を深める（関連した内容の英文を読む等）
⑤ その他（自由記述）

【自由記述】
本文の内容を理解して、表現を覚える。覚えた表現を使って文を作れるようになる。

中間評価 7月20日	中間評価 7月 25日	中間評価 9月 8日
A	A	A
（振り返りコメント） 今までの授業で新しく学んだ表現を使って本文に対する自分の考えを述べることができたので良かったです。	（振り返りコメント） 今回の授業では、前回よりも学んだことをたくさん使って文を書く事ができました。時間内に書けるようにしたいです。	（振り返りコメント） 今回の授業では、きのこの役割について更に深く学ぶ中で、初めて見る単語を覚える事ができました。今までに学んだ文を工夫して活用できました。

⑥ 生徒自己評価

学習後【目標の達成度評価】

自由記述により自分の取り組みを報告しよう

今回の単元では、きのこについての文を読む中で、文法や単語を学ぶことができました。文章の内容から、知らない単語を予想して文を読むことができるようになったので、さらにそこを強化していきます。また、文の内容を学んだあとに自分の意見を書くことを繰り返したことで、内容を工夫できるようになったと思います。最後の課題の長文作成では、今までに学んだ事を生かせました。次回の分では、更に工夫した文が書けるようにしたいです。

総合評価　A

③　評価基準の共有

<Opinions about part 1:

① 本文サマリー＋意見パターン

I learn Japan is a country of forest. They account for 66 percent and Japan has many species. I want to learn more! And I think we have to protect forest ecosystem.

I learn that Japan is rich in biodiversity. So, It is important for us to save enviroment. I think that we have to know about Japanese enviroment.

② 本文内容を主張の根拠にしているパターン

Japan should protect natural environments because it provide homes for many species. If Japanese people broke neture, we lose many species.

I think that we protect natural environment. First of all Japan is a country of forests. They account for about 66 percent of Japan's land. Also, Japan is rich in diodiversity. Many species are unique to Japan. SO, I think we protect natural environment.

③ 本文の内容をサマリーや意見の根拠・例示等で活用しているパターン

We learned that Japan is a country of forest. Japan has been among the top theree developed countries with a high forestland rate for many years. I think that Japan should keep this stuation. We can many thinks to protect forestland. For example, we should grow some plants. All the plants have a close relationsip with each othe. If we change our life, we can keep high forestlard rate in Japan

④ 本文の内容を解釈して、オリジナルの意見を書いているパターン

There are many animals which give forests good effect, so we shouldn't cut a lot of trees. Also, they can absorb CO_2, so we should remain them.

⑤　単元のまとめ

Lesson Report　(English Communication I)

(1)年　(　)組　(　)番　氏名(

Lesson 4　The Power of Mushrooms

(1) Write your opinion about this lesson in about 150~200 words. (in English)

I learned mainly two things from this lesson. First, Japan is a country of forests. They account for about 66 percent of Japan's land. Also, Japan is rich in biodiversity. Many species are unique to Japan. So, I think we should protect natural environment.

Second, Mushroom are very important plant for the forest and people. Forest animals and people like eating mushrooms. Some of then even rely wolly on then as a food source. In fact mushroom are superfoods. It is because They contain many nutrition and low in calories. Also, they break down dead plants and tran from them into organic matter and nutrients. They are vital to the conservation of the forest.

In this way I learned many things from this lesson. I find one dream that I helpful many people in the future like mushroom.

(140 words

(2) レッスンで学んだ内容をまとめよう（内容や文法事項など）【日本語で】

現在完了形　現在までに完了したこと、経験したこと、継続していることを表す。
「have[has]＋過去分詞」
Japan has been among the top three developed countries with a high forestland rate for many years.

過去完了形　過去のある時点までに完了したこと、経験したこと、継続していたことを表す
「had＋過去分詞」
Before then, people had eaten mushrooms for thousands of years.

S+V+O (=that節)　目的語の位置に置かれたthat節が考えたり伝えたりする内容などを表す。
This cycle shows that mushrooms are vital to the conservation of the forests.
※ thatは省略されることもある

Part 1	Part 2	Part 3
日本の森林の割合と生物多様性について 日本の約66%が森林 （世界の平均は31%） 原因（理由） ・温度の高い気候 ・さまざまな自然環境 ・地理的孤立 さまざまなキノコ、つまり菌類は森林の生態系で大きな役割を果たしている	食べ物としてのキノコについて 日本に生えているキノコ5千種以上 約2000種は毒がある （約300種は食べられる 森の動物の中にはキノコを食料としているものもいる キノコはスーパーフード ビタミンやミネラルが豊富 低カロリー ・多くの食物繊維と、あるタンパク質も含んでいる	森でのキノコの他の役割について 林床で育つキノコ →生きている木々に水分や栄養分を供給する 枯れ木に育つキノコ →枯れ木を分解し、有機物質と栄養素に変える キノコは森林の廃棄物を掃除して、栄養素をリサイクルする 生きている木々を助け、枯れ木を豊かな土壌にかえる

(3) このレッスンでの学びについて感想を書こう（疑問点・次の学びに向けてなど）【日本語で】

キノコは健康に良いだけでなく、森の動物や木にとっても良いものであることを初めて知りました。まず、日本の森林の多さに驚きました。世界の平均を大幅に上回っていて、自然に囲まれた国であると分かりました。日本には5千種以上のキノコが生えていて、その内の約2000種類に毒があって、約200種類は食べられると知って、キノコの世界は広いなと思いました。キノコには林床で育つものもあれば、枯れ木に育つものもあると初めて知りました。キノコについて興味が出てきたので、キノコのことをもっと調べてみたいと思いました。どんな森の動物がキノコを食べるのかなどを調べてみたいです。

（9月27日朝までに提出）

⑦　テスト

評価問題（案）

○ 次の<TOPIC>に対するあなたの意見を、次の条件に従って書きなさい。

（条件）主張、理由（１つでも可）、具体例、結論を含んだ4つ以上の英文で書くこと。

These days, many companies have cut down a lot of trees to make space for solar panels. Do you think it is a good way to solve the environmental problem?

（採点基準）

点数	文の数	内容	正確さ
５～４	条件を満たした英文が４文以上書けている。	論理展開が自然で、説得力がある。	動詞の形、文構造などの誤りがほとんどない。
３～２	条件をすべては満たしていないが、英文が３文以上書けている。	論理展開が自然である。	動詞の形、文構造の誤りが１～２箇所ある。
１	条件をすべては満たしていないが、英文が２文以上書けている。	論理展開がやや不自然である。	動詞の形、文構造の誤りが３箇所以上ある。

⑧　生徒によるテスト振り返り

組	番	氏名

質問１　あなたは、テストで思うような成果をあげる（点数をとる）ことができましたか？

（英語コミュニケーション）

①　できた

（論理・表現）

②　まあまあできた

質問２　あなたは、テストに向けた学習を進めるために、どのような工夫をしましたか？

単語は意味を見てすぐに分かるように何回も繰り返して書いたり、音声を聞いたりしました。特に、単語を書くときはアクセントに注意しながら書きました。英語コミュニケーションの方は、本文を家でも読んで覚えるようにしました。論理・表現の方は、不規則動詞を必ず書けるように家にある裏紙を使って練習しました。忘れないようにできるだけ毎日勉強するように心がけました。テスト2,3日前はポキャコンで自分ができなかったところを振り返り、そこができるようにしました。今回は科目数多かったので、少し早めから勉強するようにしました。

質問３　あなたは、次のテストに向けて学習を進めるために、どのような工夫をしますか？

リスニングは日頃からやって耳を慣らしていくのがいいと思うので、時間割をしているときなどの少時間があるときに英語を聞いていきたいと思います。テスト前になって全部復習しようとしたら大変なので、その日に習ったことはその日のうちに覚えておくとテスト前に焦らず勉強でき、時間を有効に使うことができると思います。今回のテストでは、論理・表現でスペルミスをしてしまったので、特につづりが長い単語は、スペルミスをしないように覚えていきたいと思います。次のテストに向け早めに準備していきたいと思います。

①　生徒の能力育成につながるICTを活用した授業

＜論理表現Ⅱ＞

リスニング、スピーキング活動の支援としてICTを活用

（ア）リスニングで聞き取れた内容をキーワードシェアアプリで共有

（イ）キーワードを元にリスニング内容を深める

（ウ）リテリング内容を録音し、生徒がルーブリックに照らし合わせ、発音、内容等の確認しながら修正作業をする

（エ）提出された音声を教員がルーブリックに基づき評価

自己評価

リテリング自己評価					
1・・・poor ⇔ 5・・・good					
1．I can retell the story using three pictures. （1枚不十分→マイナス1、1枚まったく説明できず→マイナス2）					
1	・ 2	・ 3	・ 4	・ 5	
2．I can retell the story using my own keywords. (OKW のみ：5、ほぼ OKW：4、半分くらい OKW：3、ほぼ SKW：2、SKW のみ：1)					
1	・ 2	・ 3	・ 4	・ 5	
3．I can retell the story using expression I learned in this lesson. (仮定法過去・仮定法過去完了　両方使用：5、片方：3、未使用：1)					
1	・	3	・	5	

評価基準

＜Speaking のルーブリック＞

課題	a（3 点）	b（2 点）	c（1 点）
Pronunciation（発音）	聞き取りやすく正しい発音で話している。	多少の誤りはあるが、おおむね理解できる発音である。	b を満たしていない。
Delivery（話し方）	身振り・アイコンタクト・間の取り方が適切である。	身振り・アイコンタクト・間の取り方がおおむね適切である。	b を満たしていない。
Content（内容）	話の流れがよく，各イラストについて適切に説明している。	話の流れが悪くなく，各イラストについて説明している。	b を満たしていない。
Expression（表現）	誤りのない，適切な表現が使われており、仮定法過去・仮定法過去完了も使われている。	多少の誤りはあるが、おおむね適切な表現が使われており、仮定法過去・仮定法過去完了も使われている。	b を満たしていない。

ICTの活用場面

ICTツール	活用場面	目的	効果
Notta （文字起こし）	音読活動	音読の文字起こしにより、発音の正確性を判定する。	間違った発音を認識でき、自ら改善に取り組んだ。
Slido- word cloud （意見集約）	キーワードの集約	リスニングで聞き取れたキーワードを入力し、全体で共有する。	聞き取れている単語の確認と、リスニングが苦手な生徒への手助けとなる。
Deep L write （文章作成支援）	英文の修正	ライティング・スピーキング内容の文法修正に使用。	文法的正確さへの意識づけが行われた。
Quizlet （フラッシュカード）	単語の確認	音声つきで単語の意味確認を行う。	授業外での単語学習が増えた。

② 生徒の能力育成につなげる教科横断的または探究的視点を取り入れた授業

＜英語コミュニケーションⅠ＞

ライティングの質的向上に対する支援として思考ツールを活用

（ア）ピラミッドチャートを活用し、思考の焦点化・構造化を図る

（イ）ルーブリックに照らし合わせ、ライティング活動を行う。

（ウ）ルーブリックに基づき、教員による評価を行う。

教科横断・探究的学習のパターン

（1） テーマの横断的活用

（2） コンテンツの横断的活用

（3） 思考スキルの横断的活用

思考スキルの横断的活用

共通の思考スキルを各教科で指導（思考ツールの活用）

例「焦点化する」　ピラミッドチャートを用いて考えを焦点化する

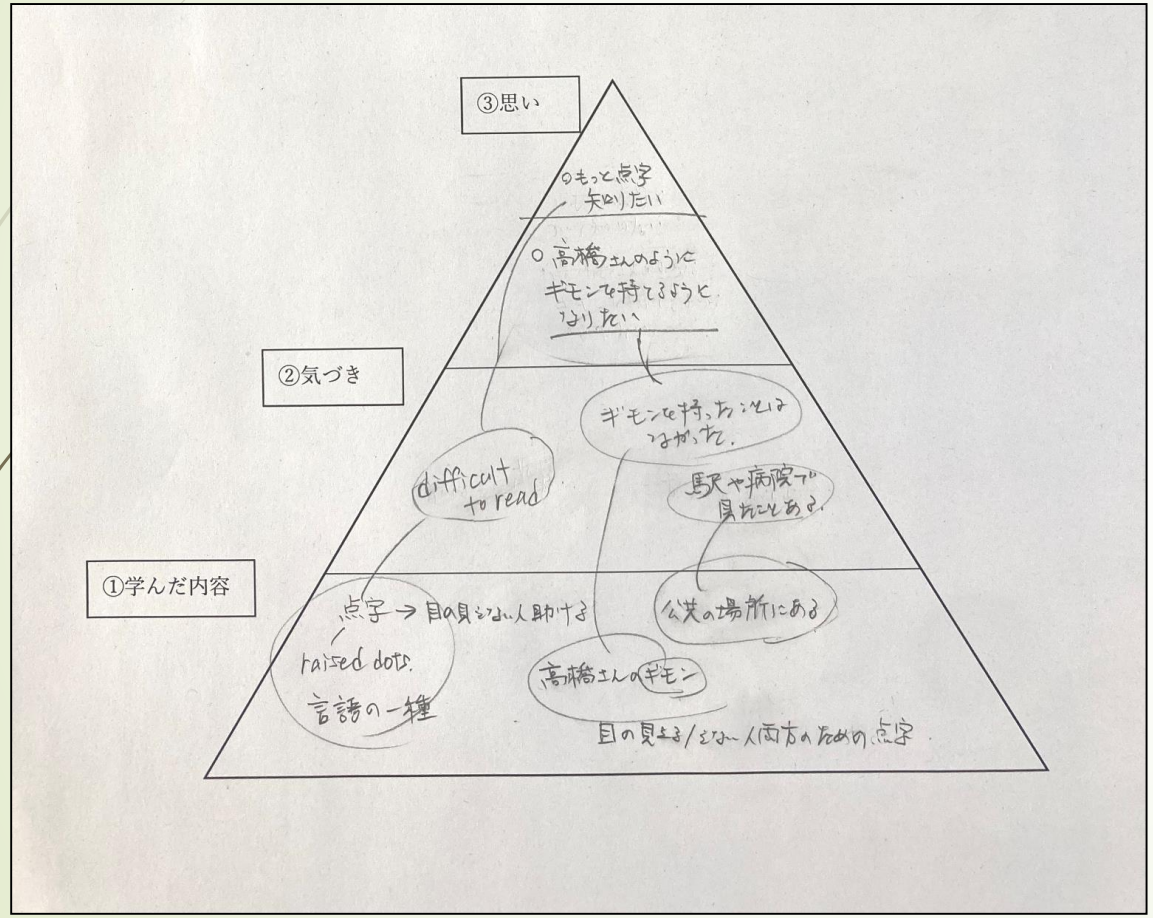
「理由付けする」　クラゲチャートを用いて理由を明確にする

ライティングにおける課題

（１）型（主張・根拠・具体例・結論）に沿って書けるが、内容がない

（２）主張に対する、根拠・具体例に論理的な整合性がない

ピラミッドチャート（焦点化・構造化）



＜意見の焦点化・構造化＞

①学んだ内容を列挙
②そこからの気づき
③気づいたことをもとに自分の思い、伝えたいことを考える

評価基準（ルーブリック）

評価	内容	構成	表現
A	・学んだ内容を踏まえ、自分の気づきや思いを、体験とともに表現している。	・繋ぎ言葉もしくは、時間の表現を使っており、展開が自然で、説得力がある。	・既習事項の活用や、言い換えた表現の活用がある。
B	・学んだ内容を踏まえ、自分の気づき、もしくは思いを表現している。	・論理展開が自然であり、意見が伝わる。	・既習事項を活用している。
C	・「B」を満たしていない。	・「B」を満たしていない。	・「B」を満たしていない。

ライティング評価の変化

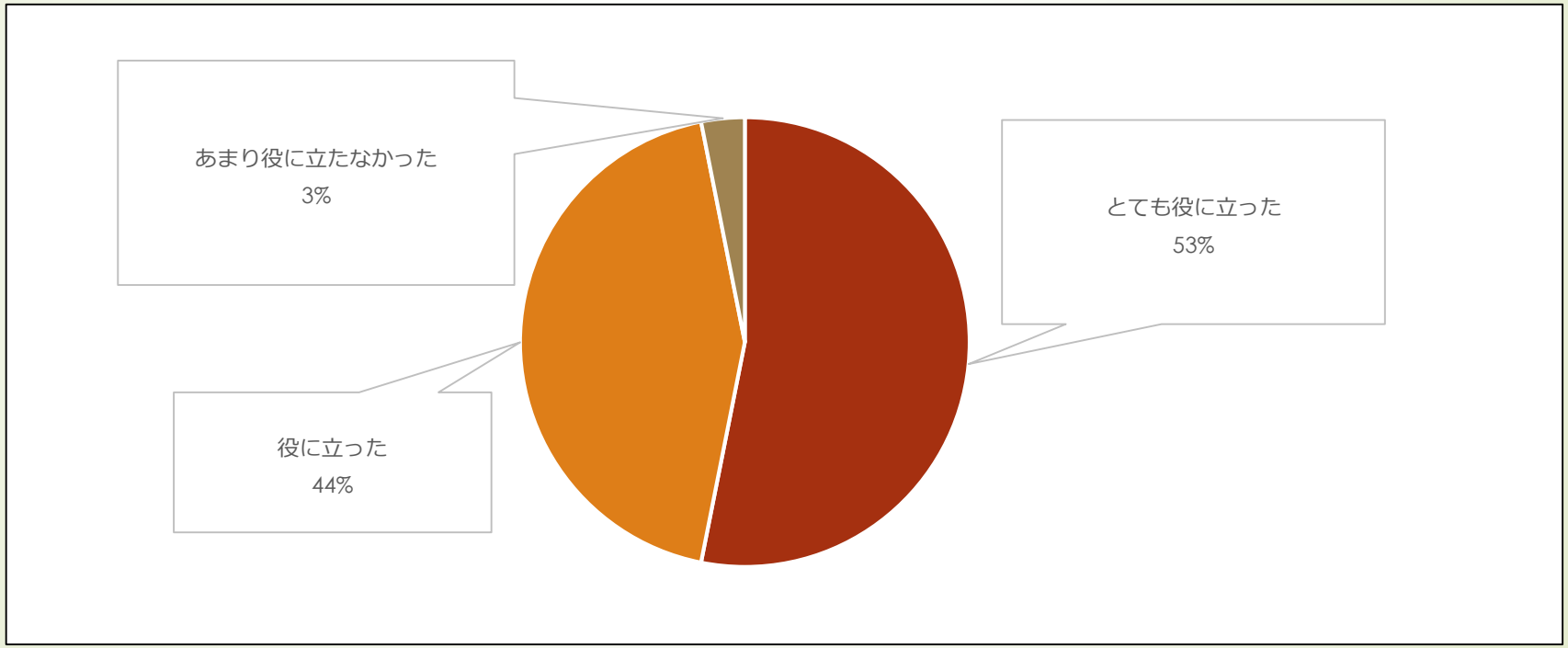
評価	Lesson 4（３４人）
A	１３人
B	１９人
C	２人

評価	Lesson 5（３３人）
A	１９人
B	１４人
C	０人

思考ツールを導入する前と後のライティングを比較すると、内容の質的向上が見られた。

生徒のアンケートより

問１　ピラミッドチャートが役に立ちましたか



問２　ピラミッドチャートを使った感想を書いてください（抜粋）

〇文の構成や、必要な部分の取捨選択を行っていく上でとても役に立った。

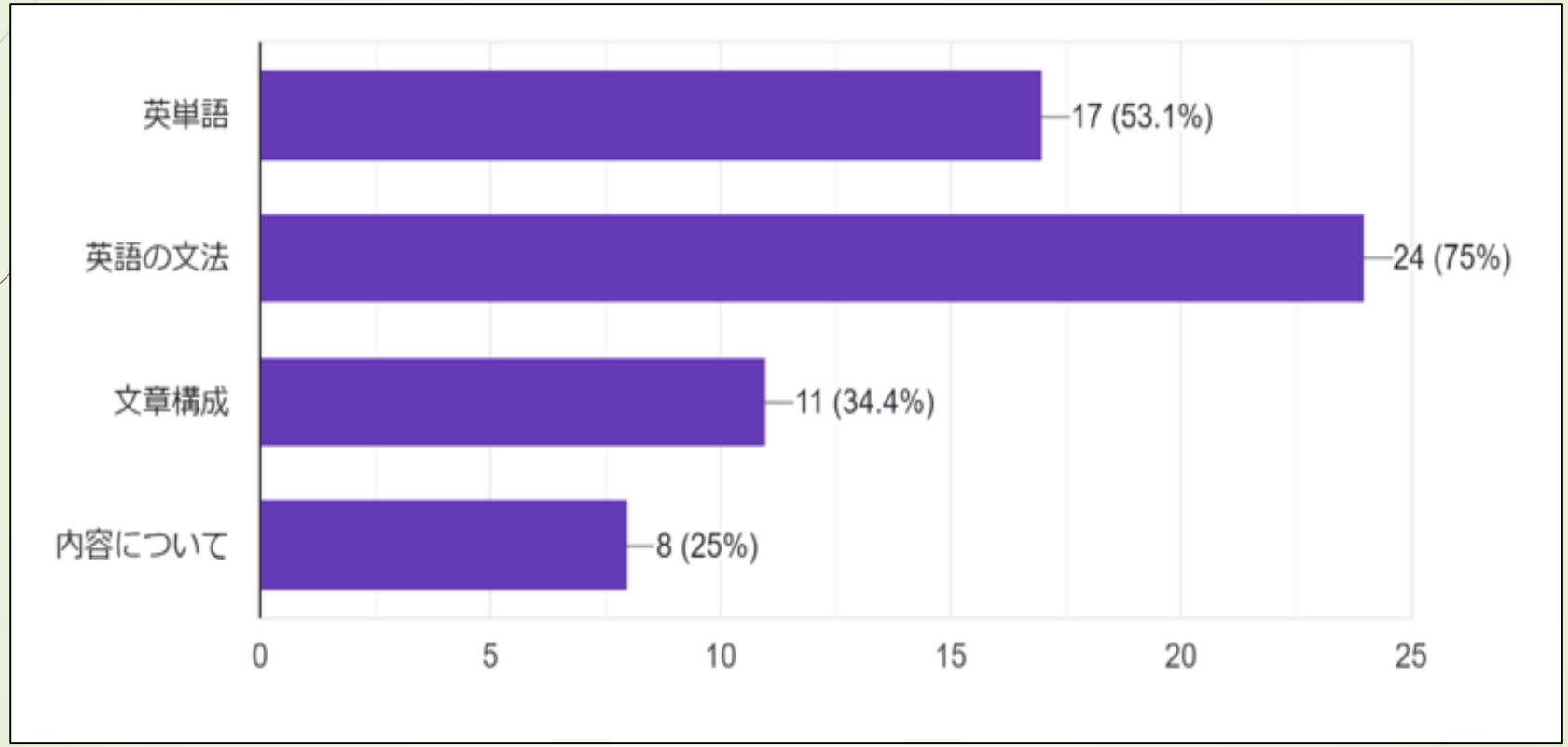
〇習った内容を書き表してみることで自分がどう思ったのかもわかりやすくなり、内容や文章構成に困らなかった。

〇自分が何を書きたいのかや、何を学んだかがわかりやすくなって良かった。

△一度日本語で書き出してみるのはとても良い方法だと感じました。要点だけ書き出すのに手こずりましたが役に立ちました。

▲ピラミッドチャートを使ってするライティングだと、いつもより文量は増えたけど、ライティングの題によってはそのまま書いたほうが文の構成がし易いように感じた。だから何でもかんでもピラミッドチャートを使うのではなく、ライティングの題によって使い分けていけば役に立つと思った。

問３　ライティングをする上で困っていることは何ですか（複数選択）



５　アンケート結果（６月→１２月）

アンケート項目の選択肢は以下の４項目となっているが、大まかな特徴をつかむため、できる（ある）／できない（ない）と２項目にまとめて分析を行った。

１　よくできる（とてもある）

２　まあまあできる（まあまあある）

３　あまりできない（あまりない）

４　まったくない

問１　授業への興味関心がありますか

項目		ある	ない	
１年	６月	93.6%	6.4%	１、２年生ともに、９割以上の生徒が授業に対する興味を維持している。
	１２月	91.1%	8.8%	
	差	-2.5%	0.0%	
２年	６月	93.8%	5.6%	
	１２月	90.0%	10.0%	
	差	-3.8%	0.0%	

問２　課題の解決に粘り強く取り組むことができますか

項目		できる	できない	
１年	６月	88.1%	11.9%	１年生は減が見られるものの、８割の生徒が粘り強く取り組む態度を維持しているが、２粘性は２割弱の減が見られる。教科の難易度が上がり、対応できてないと考えられる。
	１２月	82.3%	17.7%	
	差	-5.8%	0.0%	
２年	６月	88.8%	11.2%	
	１２月	69.2%	30.8%	
	差	-19.6%	0.0%	

問３　試行錯誤して物事を考えることができますか

項目		できる	できない	
１年	６月	89.0%	11.0%	１、２年生ともに１割程度の減少が見られた。問４の割合の減少が減少の要因の一つだと考える。試行錯誤=解決のための選択肢の数と考え、多角的なものの見方を育成する必要がある。
	１２月	76.1%	23.9%	
	差	-12.9%	0.0%	
２年	６月	88.0%	12.0%	
	１２月	76.7%	23.3%	
	差	-11.3%	0.0%	

問４　多様な角度から授業の内容を考えることができますか。

項目		できる	できない	
１年	６月	78.9%	21.1%	問２、３の能力を下支えする資質・能力だと考える。思考ツールの活用などで能力の育成を図る必要がある。
	１２月	64.6%	35.4%	
	差	-14.3%	0.0%	
２年	６月	78.4%	21.6%	
	１２月	62.5%	37.5%	
	差	-15.9%	0.0%	

問５　授業に対する自分の理解度を自己評価することができますか

項目		できる	できない	
１年	６月	88.1%	11.9%	授業の理解度については、７～８割の生徒が自己分析できているが、その改善のための手だてを取るまで至っていない。
	１２月	78.8%	21.3%	
	差	-9.3%	0.0%	
２年	６月	78.4%	21.6%	
	１２月	72.5%	27.5%	
	差	-5.9%	0.0%	

問６　次回の学習の予習をすることができていますか

項目		できる	できない	
１年	６月	25.7%	74.3%	多くの授業が予習を課さない形式をとっているためだと考えられる。２年生割合増加しているのは、小テストの実施などが要因だと考えられる。
	１２月	10.6%	89.4%	
	差	-15.1%	0.0%	
２年	６月	12.8%	87.2%	
	１２月	16.6%	83.3%	
	差	3.8%	0.0%	

問７　学習内容の復習（ふりかえり）をしていますか

項目		できる	できない	
１年	６月	53.2%	46.8%	１、２年ともに４割程度まで減少している。各教科課題は出ているが、授業内庁の復習と生徒はとらえていない。もしくは、課題と学習内容の不一致が起こっていると考えられる。
	１２月	38.9%	61.1%	
	差	-14.3%	0.0%	
２年	６月	52.0%	48.0%	
	１２月	41.7%	58.4%	
	差	-10.3%	0.0%	

問８　一人一台端末を積極的に活用することができますか

項目		できる	できない	
１年	６月	93.5%	6.4%	１、２年生とも活用状況は高い割合を示している。しかし、活用内容の把握ができないので、学習面での活用なのかは判断がつかない。
	１２月	90.3%	9.8%	
	差	-3.2%	0.0%	
２年	６月	85.6%	14.4%	
	１２月	84.2%	16.6%	
	差	-1.4%	0.0%	

6　次年度に向けて

本年度の研究を通しての課題は以下の通りである。

（１）ICTの活用も教科横断的な学習も、指導と評価の一体化という授業の流れに適したものでないと形骸化する

（２）何をもって深い学びと考えるか、教科だけでなく学校全体で共通理解が必要

（３）評価（特に主体）の部分が、生徒の変容を促すもののになっているか検証まで至らなかった

次年度は以上の課題解決を中心に取り組みたいと考えている。